



たこへの支出



- 家計調査（二人以上世帯）結果より -

今年の7月2日は、雑節^{※1}の1つである「半夏生（はんげしょう）^{※2}」です。半夏生に関して、全国には様々な風習^{※3}がありますが、中でも関西周辺ではこの日に蛸（たこ）を食べる習慣があるようです。そこで、今月は「たこ」への支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

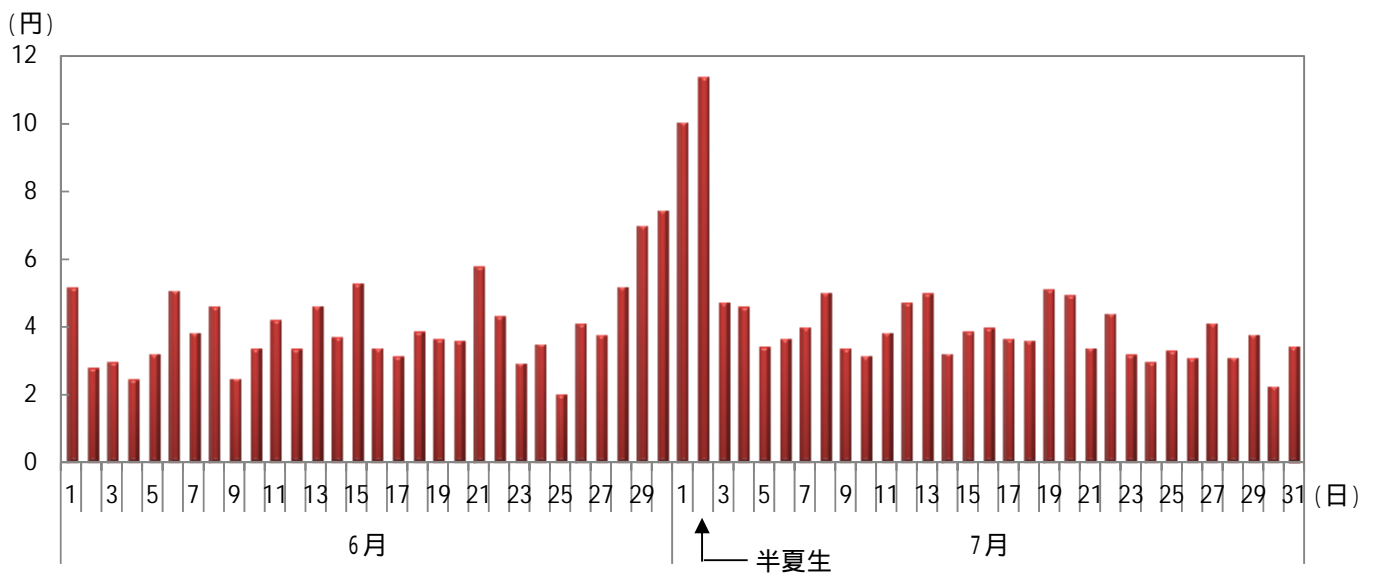
- ※1 雑節には、半夏生のほか、節分、彼岸、八十八夜、土用などがあります。
- ※2 以前は夏至から数えて11日目の日とされていましたが、現在では太陽黄経が100度となる日（昨年と今年は7月2日）をいいます。
- ※3 半夏生に香川県では、農家の方が農作業を手伝ってくれた方々に対して、その年に収穫された麦でうどんを作って振る舞う風習があり、また福井県の奥越地方では、丸焼きの鯖を食べる風習があるようです。

半夏生の支出が多い

平成26年6月及び7月について、「たこ」への1世帯当たりの支出金額を日ごとに見てみると、半夏生に当たる7月2日の支出が最も多く、次いでその前日（7月1日）が多くなっています。

この結果を見ると、半夏生に「たこ」を食べるという習慣が家計調査の結果にも現れていることが分かります（図1）。

図1 「たこ」への日別支出金額（平成26年6月及び7月）

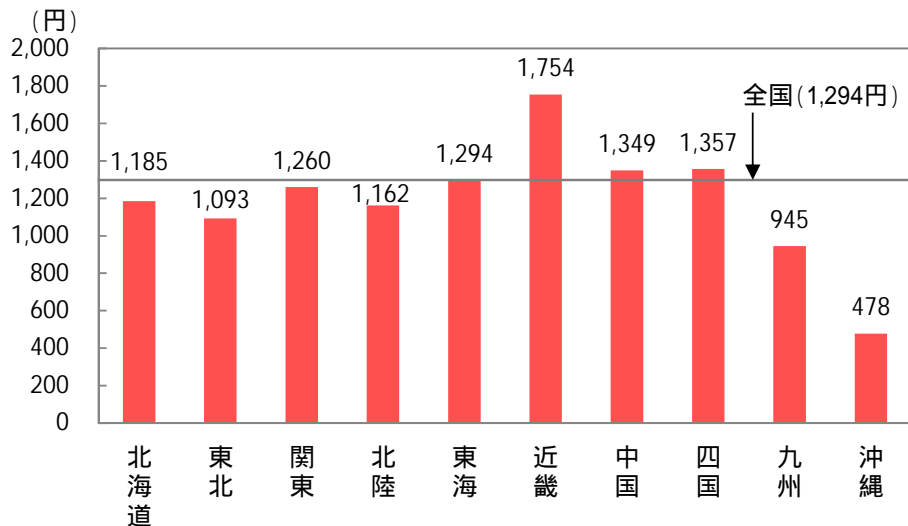


「たこ」への支出が多い近畿地方

「たこ」の1世帯当たりの年間支出金額を地方ごとに見ると、「たこ焼き」などが有名な近畿地方が1,754円と最も多く、全国平均(1,294円)の1.4倍となっています。また、近畿地方に次いで、四国地方(1,357円)、中国地方(1,349円)の支出が多くなっています。

一方で、最も支出が少ない沖縄地方は478円となっており、支出が最も多い近畿地方は、最も少ない沖縄地方の支出金額の3.7倍となっています(図2)。

図2 「たこ」への地方別年間支出金額(平成24~26年平均)



全国では12月、近畿地方では7月の支出が多い

全国の「たこ」への支出金額を月ごとに見ると、おせち料理の準備などのために需要が増える12月は一年を通じて最も支出が多くなっています。また、12月を除いてみると、7月、8月の夏場に多く、冬場に少ない傾向がみられます。

一方、近畿地方でも、夏場に多く、冬場に少なくなっており、全国とほぼ同様の傾向がみられますが、半夏生のある7月の支出が最も多く、次いで、8月、6月となっており、12月の支出は全国の季節変化に比べると小さくなっています(図3)。

図3 「たこ」への月別支出金額(平成24~26年平均)

